

## 平成 29 年度中間評価結果への対応状況と今後の事業展開について

|       |               |       |       |        |        |
|-------|---------------|-------|-------|--------|--------|
| 機関名   | 奈良先端科学技術大学院大学 |       |       |        |        |
| 統括責任者 | 役職            | 学長    | 実施責任者 | 部署名・役職 | 理事・副学長 |
|       | 氏名            | 横矢 直和 |       | 氏名     | 箱嶋 敏雄  |

|   |
|---|
| 平成 29 年度中間評価結果  |
| 評点区分： A   |
| 全体に対する所見  |
| <p>意欲的に取組を進め、顕著な成果を上げているなど、順調に進捗しており、当初構想の十分な達成が見込まれる。規模の拡大を行わないとしても、将来の発展に向けた方策については、今後も継続的に検討いただきたい。</p>  |
| 当初構想・計画の進捗状況に対する所見  |
| <p>人事労務制度の改革により、URA のキャリアパスを含めた人事制度及び評価システムを整備したことは評価できる。教員の高い流動性を生かした教員の戦略的確保の継続についても期待する。</p>             |
| 今後 5 年間の将来構想に対する所見  |
| <p>URA の人事制度の整備などが順調に進捗している一方で、主にコーディネーターとしての役割を期待されていることに対して、現状では大きなギャップがあると思われる。今後の推移に沿った検討が必要と考えられる。</p> |

|  |
|--|
| 将来構想の達成に向けた現状分析  |
| 将来構想 1 【 先端科学技術の研究の高度化と新たな研究領域の開拓を行う大学 】   |
| <p>① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況</p> <p>将来の発展に向けた方策として、URA が研究企画力を発揮して新しい研究課題の創出に積極的に関与することによって研究力を強化し、先端科学技術の研究の高度化とともに新たな研究領域の開拓を行うことを将来構想として設定した。</p>   |
| <p>② 現状の分析と取組への反映状況</p> <p>URA は、現在、IR を基本にした研究戦略策定支援、外部資金獲得支援、国際連携支援等の全学の研究マネジメントを実施しているが、研究力の一層の強化のために、これらを充実させ、URA が異分野連携や産官学連携に積極的に関与して学際的・分野融合的な研究課題の創出を戦略的に行う必要がある。このため、経営企画力等の高度スキルを有する URA 育成のための本学独自の URA 強化制度を設けるとともに、平成 30 年度に移行した 1 研究科体制のメリットを活かした学際融合的な課題および産官学連携課題の創出を中間的なアウトカムとして設定した。</p> |
| 将来構想 2 【 国際的に存在感があり競争力の高い大学 】  |
| <p>① 平成 29 年度中間評価所見の反映状況</p> <p>本事業の前半 5 年間の成果である国際連携をさらに発展させ、URA のコーディネーターとしての役割を強</p>  |

化するとともに、より戦略的な国際連携体制を確立することによって、人材と研究をグローバル化することを将来構想として設定した。

② 現状の分析と取組への反映状況

現在、これまでに設置した海外研究拠点（2 拠点）と学内の国際共同研究室（3 室）の管理・運営をはじめとした各種の国際連携の取組を行っているが、これらを継続するとともに、スーパーグローバル大学創成支援事業とも連携して国際連携をより戦略的に進めるために、国際連携戦略推進 PT を全学的な組織として設置することを取組に反映させた。

将来構想3【研究人材の戦略的確保を持続的に行う組織力の高い大学】

① 平成29年度中間評価所見の反映状況

人材の高い流動性を活かした教員の戦略的確保の継続のために、世界 No.1 クラス教員の確保の指標として、新たに Top1%論文著者教員数を設定して目標をより明確にした。さらに、将来構想を具体的に実現していくために、研究者リクルーティング体制の強化を構想に反映させた。

② 現状の分析と取組への反映状況

現在、本事業の若手研究者発掘・育成プロジェクトを活用してテニユア・トラック特任准教授を採用する等、優秀な研究者の確保を進めているが、今後、さらに戦略的に教員を確保していくためには、国内外の研究者を常にサーチして、必要に応じて非公募で採用を行う等のリクルーティング体制の確立が必要である。このような体制の強化のため、全学的な取組として人材サーチコミティの立ち上げを取組に反映させた。さらに、教員確保のための環境整備として、女性教員・外国人教員採用へのインセンティブおよびスタートアップ支援の強化を取組に反映させた。

【参考】論文の質に係る指標について

| 2013年-2017年平均 | Scopus | WoS   |
|---------------|--------|-------|
| 国際共著論文率       | ————   | 27.0% |
| 産学共著論文率       | ————   | 3.4%  |
| Top10%論文率     | ————   | 10.1% |

研究大学強化促進事業推進委員会コメント

- 本事業が順調に推進されており、URAの位置づけも明確にしている。更なる自主財源化率の向上が図られることを期待する。